

水産業強化支援事業事後評価結果

		長崎県水産部水産経営課
政策目的	水産業経営の強化	
政策目標	経営構造改善目標	29-10
事業実施主体	五島漁業協同組合	
実施地区名	五島市三井楽地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	平成29年度	令和3年度
交付金額	162,252千円	
事業計画の内容	漁獲物鮮度保持施設鉄骨造3階 335㎡ 製氷、貯氷、搬氷設備 製氷15t、貯氷30t、冷凍庫30t	
評価	成果目標	製氷利用量の増
	現状値	1,610t（令和3年度末時点）
	目標値	2,054t（令和3年度末）
	（1）現状値の説明	現状値は目標値の2,054tに対して令和3年度末時点で1,610tであった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け出荷が思うように伸びず、操業回数及び水揚量が減少したことから氷の利用量も少なくなった。
	（2）地域への経済効果（ハード事業のみ）	近隣地区の玉之浦・福江地区の製氷施設を集約化し、以前は民間製氷会社より高額購入していたが、施設整備後は氷を安価で購入することが可能となり一層の組合員の収益性改善に繋がった。また、魚類養殖の振興についても、流通拠点となる三井楽漁港に安定的な氷供給体制が整い、定置・養殖魚業の安定的な出荷体制が確立され、漁業生産活動の円滑化が図られた。さらに、製氷施設の集約化に伴い、廃止となった製氷施設の維持管理費等が大幅に削減。
（3）所見	計画当初から水揚量は減少しており、また新型コロナウイルス感染症の影響にて魚価の下落や出荷先の減少等に伴い、水揚額は向上はしていない。	
（4）評価機関への意見等		
今後の改善方向等に関する分析	新型コロナウイルス感染症の影響を受け出荷先の減少に伴い操業回数及び水揚量が減少し氷の利用量も少なくなっているが、新型コロナウイルス感染症の影響が低下し経済活動の回復が進むと、操業回数の増加による出荷量及び氷の利用量の増加が見込まれる。また製氷施設近辺に簡易加工場を整備し、加工品の出荷の増加に向けた取り組みを新たに行っている。今後も様々な加工品も検討し氷の利用量増加に繋げたい。	